

みは
ら再発見!

男女共同参画社会をめざす情報誌

ウィズユー
With YOU

第11号

あなたとともに…



『青空のかけ橋』

ともに歩み ともに育む
男女共同参画のまちづくり

三原市

平成22(2010)年度男女共同参画施策の進捗状況

市では、男女共同参画社会の実現を総合的かつ計画的に推進するために、男女の人権が尊重されることを基本として、「三原市男女共同参画プラン」〔計画期間 平成19年度～平成23年度〕を策定し推進しているところです。

情報誌で市民の皆さんに、三原市男女共同参画プランで目標値を設定している施策の平成22年度の進捗状況を公表します。

①男女共同参画を進めるための人づくり

指 標		プラン策定時の値 (平成18年度)	計画期間終了時 の目標値 (平成23年度)	平成22年度
政策・方針決定過程 への女性の参画促進	男女共同参画セミナーの開催	3回	5回	5回
	各種審議会における女性委員の割合	21.7%	30.0%	22.1%
広報・啓発の充実	情報誌「with YOU」の発行	5,000部	45,000部	45,000部

②男女共同参画を実現するための環境づくり

指 標		プラン策定時の値 (平成18年度)	計画期間終了時 の目標値 (平成23年度)	平成22年度
職場における 男女共同参画の推進	農林漁業、商工業など自営業における就労環境改善に向けての研修会・講習会の開催	2回	12回	10回
	家族経営協定に関する研修会・講習会の開催	0回	6回	15回
	経営に関する研修会・講習会等の開催	5回	12回	11回
家庭における 男女共同参画の推進	ドキドキ子育て講座	3講座×2回	3講座×3回	3講座×3回
	乳児保育事業	1箇所	2箇所※	7箇所
	延長保育事業	9箇所	12箇所※	10箇所
	夜間保育事業	0箇所	1箇所※	0箇所
	休日保育事業	0箇所	1箇所※	1箇所
	乳幼児健康支援一時預かり事業 (病後児保育施設型)	0箇所	1箇所※	1箇所
	家庭的保育事業	0箇所	1箇所※	0箇所
短期預かり支援事業	0箇所	1箇所※	0箇所	
地域における 男女共同参画の推進	三原市まちづくり支援事業	71団体	100団体※	129団体

③男女共同参画を支える社会づくり

指 標		プラン策定時の値 (平成18年度)	計画期間終了時 の目標値 (平成23年度)	平成22年度
高齢者等が安心して 暮らせる環境づくり	障害者への相談支援事業	10件	38件	47件
	障害者の福祉施設から一般就労への移行	8人	10人	15人
子どもがのびのび 育つ環境づくり	地域子育て支援センターの設置	5箇所	7箇所※	7箇所
	つどいの広場の設置	0箇所	1箇所※	1箇所
	子育て支援総合コーディネーターの配置	なし	実施※	なし
	ファミリーサポートセンターの設置	0箇所	1箇所※	1箇所

※は、「みはら子育て応援プラン」(平成17年3月策定)〔計画期間平成17年度～平成26年度〕における平成21年度(中間年次)の目標値です。

このプランの実行にあたっては、市民・事業者・地域団体・行政が一体となった取組みと連携が必要です。今後も一層のご理解とご協力をお願いします。

～人がふれあい、ともに参画するまち～ 男女共同参画社会の実現に向けて

三原市男女共同参画推進条例を制定 (平成23年10月1日施行)

市・市民・市民団体・事業者・教育関係者など多様な主体の協働により、家庭生活、仕事、地域その他の社会のあらゆる分野における活動の調和が図られた男女共同参画社会を実現するため、三原市男女共同参画推進条例を平成23年3月に制定し10月1日に施行しました。条例には、基本理念として「男女の人権の尊重」「家庭生活における活動と他の活動との調和」など6つの柱を掲げています。

～三原市男女共同参画推進条例の前文～

我が国では、日本国憲法に個人の尊重と法の下での平等がうたわれ、男女平等の実現に向けた様々な取組みが、国際社会とも連動して進められる中、男女共同参画社会基本法が制定された。

三原市においても、この基本法の理念にのっとり、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現を目指し、取組みを進めているが、少子化や長寿社会の到来等、社会経済情勢の変化に伴う新たな課題に対応していくためには、なお一層の取組みが求められている。

よって、私たちは、市・市民・市民団体・事業者・教育に携わる者という多様な主体の協働により、家庭生活、仕事、地域その他の社会のあらゆる分野における活動の調和が図られた男女共同参画社会を実現するため、この条例を制定する。

条例制定記念講演会

9月30日、三原市芸術文化センター ポポロにおいて、杉尾秀哉さんをお迎えし、「男女共同参画社会実現の先に～私たちの暮らしはどう変わるのか～」と題した三原市男女共同参画推進条例制定記念講演会を開催しました。

杉尾 秀哉さん プロフィール

[TBSテレビ報道局 解説・専門記者室長(局長待遇)]
1957年 兵庫県生まれ。東京大学文学部社会学科を卒業後、1981年 (株)東京放送入社。報道局社会部・編集部・政治部を経て、1993年「ニュースの森」のキャスターに就任。その後、JNNワシントン支局長、報道局社会部長などを歴任され、現在、「みのもんたの朝ズバッ!」、「ひるおび!」、「Nスタ」、「サンデースコープ」などに、コメンテーター、キャスターとして出演中。



※ウーマノミクスとは、就労する女性が増えることで、女性が生活者視点での多様なサービスや商品を生み出し、企業に活力を与え、収入で消費をけん引する経済のことです。

男性型モデルの現実とは…

今までは男性が会社物語を生き、女性が家庭物語を生きてきた人が多かったが、この男性型モデルでは、男性に長時間労働など過度な負担がかかり、重圧にさらされ中高年男性の自殺が増えている。今後は、男女が共に二つの物語を生きることにより、人生(生き方)を変え、会社ばかりでなく地域生活を楽しむことにより、エネルギーが出て、生きる喜びを感じ、人が豊かになる。これが私たちの暮らしの目指すところである。このように、社会全体を変えるため、男女共同参画社会の実現は一人一人の課題である。

30年前、入社当時は…

入社したテレビ局の社員は男性のみで、女性はアナウンサーだけだった。2年後には女性社員が誕生。昭和61年に「男女雇用機会均等法」が施行され、少しずつ改善され、今では子育てに積極的に関わる男性「イクメン」も増え、女性だけが家事や育児をするという社会は変わりつつある。

国内総生産(GDP)が第3位に…

ずっと2位を維持していた日本が平成22年にアメリカ合衆国・中国に次いで3位となり、このままではどんどん下降すると予想されている。色々な要因の中の一つに、少子化があげられ、海外メディアでは、日本はニュー・デクラインング・カントリー(新衰退国)と言われている。

日本の経済成長を高めるためにも、女性の潜在力を生かす必要がある。

少子高齢化が、騎馬戦型から肩車型社会に…

現在一人の高齢者を三人で支えている「騎馬戦型」だが、将来一人の高齢者を一人が支える「肩車型」になると言われている。支える人を強くするためには、女性の活用や少子高齢化対策等に力を注ぐ必要がある。

ヨーロッパでは、女性が働きやすい職場作りに真剣に取り組むことによって、男性もワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が取れるようになり、さらに出生率も上昇するという好循環が生まれている。閉塞感を打ち破り、企業や社会を元気づける大きな鍵として、ウーマノミクスが注目を集めている。

講演では、内閣府「男女共同参画白書」から日本の「HDI、GII、GGIにおける日本の順位」「女性の年齢階級別労働力率(M字カーブ)」等を取りあげ、「日本では出産を機に仕事をやめたり、子育て期に仕事を中断する女性が多い」「これまでの日本社会は男性の雇用を安定させ、妻と子どもを養う男性型モデルであったが、男性の育児参加の促進、子育てや介護支援の充実を図り、共働きやワーク・ライフ・バランスがあたりまえとなるよう社会のシステムを変えていかなくてはならない。」といったことなどをわかりやすくお話ししていただきました。

講演の結びに、「男女共同参画社会は男性も女性もともに生きやすい社会の実現です。条例を根拠に男女共同参画を一步一步進めていくことが大事です。」と述べられました。

HDI(人間開発指数) 日本は169か国中11位
国連開発計画(UNDP)「人間開発報告書2010」
GII(ジェンダー不平等指数) 日本は138か国中12位
国連開発計画(UNDP)「人間開発報告書2010」
GGI(ジェンダー・ギャップ指数)日本は134か国中94位
世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report 2010」

キラリスト ちょっと聞かせて!



今回のキラリストは、**県立広島大学三原キャンパス パペットサークル元気組**さんです。

西港町内会の敬老会が行われた港町会館で、公演を終えられたサークルの皆さんにお話を伺いました。

まず、サークル顧問をされている保健福祉学部看護学科 大内隆 先生は、「パペットには“いのち”への畏敬の念が根底にあり、人を魅了する要因が備わっていると感じています。また人は愛他行動をとる性質を本来持ち合わせており、他のために行動することに喜び、嬉しさを覚えます。活動は、**社会の元氣と幸福**を目的に行っており、社会問題でもある不安や孤立解消のために交流会の形式で開催しています。地域の人が集い、人形劇を観ることによって心がひとつになり、またストーリーがもたらす感情への働きかけでは悲しみや喜びを共有したり、あるいは共感を育んだりします。その結果、観る人の自尊心や**人間性を高め**、生きる意味や目的を考えることができるようになるのです。サークルは、学生だけではなくボランティアの方にも加わっていただき、人形制作にも市民やコスモス文庫さんなどの団体の協力をいただきながら、地域と共に活動しています。」と話されました。

敬老会での演目は、佐野洋子 作「100万回生きたねこ」と大内先生のオリジナル作品「看護師さん物語」の二作品で、テーマは、「愛すること、生きること」でした。上演の合間

には、「しあわせなら手をたたこう」の歌に合わせて体を動かす体操があったり、一寸いい話のコーナーではインフルエンザのお話もあって、あっという間に二時間が経ちました。

サークルのまとめ役 阿南さん、宮地さん、中田さんは「このサークルのメンバーは男女合わせて18名です。公演は、前回の助言を参考にさせていただき、練習を重ねました。かなり納得のいくものになったと思います。会場の皆様にも楽しく観ただけでメンバーは、今、達成感にあふれています。」と感想を述べてくださいました。

会場から「勉強も忙しいのに一日楽しませてくれてありがとうございました。」とお礼が述べられました。

県立広島大学三原キャンパス パペットサークル元気組&地域ボランティアの皆さんには、大学と地域の力を合わせた心豊かで元気な地域づくりへの期待と心意気を感じると共に**人がふれあい、ともに参画するまちづくり**がまた一歩前進した思いを強くしました。

上演を希望される方は、県立広島大学三原キャンパス パペットサークル(☎0848-60-1180)までお問い合わせください。



編集後記

平成23年3月、三原市男女共同参画推進条例が制定され、10月1日施行しました。ウイズユーの編集者の一人としては、三原市における推進の推移を見守りつつ条例の制定を待っていました。施策の根拠としての条例が制定されたことには、いささかの感動を覚えます。実に本号は記念すべき第11号です。多様な主体の協働により、この条例が育っていくことを願って止みません。